

令和4年度 奈良県立畝傍高等学校

第3回学校運営協議会 議事録

令和5年3月6日(月) 14:00~15:30

出席者 委員 8名(2名欠席)、事務局 4名

1 校長挨拶

2 協議

<会長より>

学校評価総括表には、具体的目標、令和4年度の目標値と取り組み状況、自己評価が書かれているので、これを目安にして協議会としての評価を順に協議していく。

<評価の中で委員から出たご意見>

① 全日制「学校評価総括表」学校関係者評価について

- 睡眠時間について、数値としてはなかなか改善に至っていない部分もあるが、指導については適宜方向性をもってなされている。学校からかなり啓発していることを評価すべき。家庭での影響も大きいのではないかと考える。
- 各教科での探究型学習の充実や公開講座の実施について、目標を大きくクリアしているので A とする。来年の目標値をさらに意欲的な数値設定としてもよい。
- ICT 活用について、最終的な数値が出ていない項目については判断し難い部分もあるが、状況を聞くと概ね目標値は達成しているということではあるので B 以上であると判断する。
- 課題探究について、生徒の満足度は高いが、教員としては「まだもう少し出来るのでは」「踏み込んだ探究をしてほしい」と願っていることから自己評価が低くなっていると聞いた。一生懸命実践しておられ、理想が高いということだと思うが、教員ではカバーしきれない部分もあるので、生徒の満足度が高いのであれば A でよい。今後の深まりへの期待を込めて、また我々も今後関わっていけたらと思っている。
- 海外留学、国際交流の促進について、コロナのために渡航ができなかったのだから仕方のないことだと思う。その代わりに様々な方を招聘しての出前授業やエンパワメントプログラムなどの取組を通して、生徒達がより広い視点や視野を得られるような機会をつくられている。来年度には海外での研修旅行や留学が増えると思うので、今年取組をそこにつなげてもらいたい。
- 地域との協働の推進について、地域清掃活動をしている生徒の姿をよく見かけるし、吹奏楽部や音楽部の生徒による演奏会の案内も受けている。「3年生にエールを送る会」についても、特に地域からの反対

の声はなかったと思う。地域と協働しての新しい取組もしているので、評価を A にしてはどうか。

② 定時制「学校評価総括表」学校関係者評価について

- 基本的な生活習慣、規範意識醸成指導の充実について、規範意識醸成に関する受け項目 85%以上が目標で、94%が肯定的回答をしている。これは120%を超えていないのでBということだと思うが、とても高い基準だと思うので、評価はAとする。
- 学習意欲に関する項目の肯定的回答が65%以上で、1年生の一人一台端末が定着しており、積極的に活用して授業に取り組んでいる。84.1%が肯定的回答をしており、目標値を大きく超えているし、非常に高い数字だと思うので評価はAとする。
- キャリア教育の推進について、進路HR年2回、進路講演会年1回の開催が目標で、開催回数は達成しているが、自己評価はB評価となっている。これについても、まだまだ生徒達に進路を探究させたり考えさせたりすることが出来ていない部分もあるという課題があるとのことであるが、今年度は開催を目標としているので、Aの評価とする。
- 進路情報提供の充実について、学校からの進路情報提供に対する学校生活アンケートの肯定的回答65%以上が目標で90%が肯定的回答をしているということになっている。ただ、課題として1・2年生に対する情報提供が少ないことが挙げられているが、十分に目標値を上回っているため、評価はAとする。
- いじめ防止方針に基づく取組の推進について、いじめアンケートでの肯定的回答89.2%で、目標値100%に到達しなかった。また、89.2%以外の生徒は何か思いを持っているのだと考えたことから、自己評価ではBとなっている。しかし、100%いじめがないことが大事なのではない。逆に、色々な人間関係がある中で生徒達は生活をしているので、100%だから良いということでもない。学校に求められていることは、いじめに対してどのように取り組むかということだと思うので、目標として100%を求めることには違和感がある。自分がしんどい時に「しんどい」と言える学校であることが一番大事だと思うので、それも踏まえて考えてほしい。

③ 次年度以降の学校運営協議会の取組について

- 課題研究について、生徒の満足度は高いが、教員から見ると、更なる工夫により「生徒達の探究をもっと高いレベルで深めさせることができるのではないか」というジレンマを抱えている。これについては学校運営協議会も地域ぐるみで生徒達の課題探究を支援していけるようバックアップしていけたらと思っている。例えば、大学生や大学院生が生徒達と一緒に研究テーマを考えていく機会や、生徒の希望に応じた大学での公開講座の参加、大学に所属する留学生や研修留学生との交流などのことが出来るのではないか

と考えている。大学の資源を生かしつつ、学校のニーズに合わせて提供出来るようにしたい。

- 本校 OB の中に様々な人材がいるので、講師やフィールドワークなどお手伝いできればと考えている。
- 地域の行政機関として、今年度は市の公開講座や観光政策案内(国際交流)を実施。国際交流会ではカナダの方をお呼びし、日本との文化の違いなどを畝傍高校の ALT の先生と一緒に生徒に海外の魅力を伝えた。そのようなことも引き続き実施したい。生徒達にきっかけや勇気を与えられたらと考えている。
- 現在、コロナの影響で留学生が 0 人だが、今後良くなるのではないかと考えている。同窓会で生徒の留学を支援する基金を設けているが、本来の目的で是非とも使ってもらいたい。海外の人との交流を持つような場を作り、グローバルな思考のできる生徒を育ててほしい。
- 日本人ではないネイティブな発想を持った人から話をうかがうことで、さらにグローバルな思考が身につくのではないかと思う。同時に、奈良県に育った生徒なので、もっと奈良県を理解してほしいとも思っている。郷土奈良を好きになること、よく知ることを通して、奈良県の情報を発信出来る生徒を、長い期間を通して育ててほしい。
- 課題研究について「研究テーマを設定する際にテーマについて考える機会になっている」と回答した生徒が約 40%いることに驚いている。研究がまとまらなかったり、上手くいかなかったとしても、友達の発表を聞いたり自身が発表を繰り返した機会が持てたことで生徒達が新たな気づきを得られたのではないかと思う。
- 課題研究は、自分の興味からテーマを決めるとのことだが、そもそも興味や関心が分からない生徒もいて当然だと思う。先生方だけでなく、大学生や地域の方が、生徒の課題研究の伴走者になって子どもの思いに寄り添っていただけたら、より素敵になると思う。

3 連絡事項

4 学校長挨拶